
幼き窓

光琳寺 凪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼き窓

【ZPDF】

Z0554D

【作者名】

沐浴寺 凪

【あらすじ】

人は誰でも夢を見る。その夢は一つの窓を通して見ている風景。そして朝になり皆はその夢を忘れていく。ある日、僕はその夢の地にいた。はたして僕はどうなるのか！？

赤いカラスが空を舞い、緑の月が、歌を歌う。そして月はその歌を、途中でやめて踊りだす。それを見つけた青ネズミ、踊りに合わせて歌いだす。

「誰もが私を見ているの 瞳の窓から 見ているの そして夜は開け鐘が鳴り みなは窓から遠ざかる そして私を忘れてく だけどもう一度覗けばね 誰でも私が見えるはず 夢といつものを見るかぎり みんな絶対ここを見る」

僕は正直眼を疑つた。僕の前にはいつもと変わらぬ人々が居た。みんなは僕に全く話しかけてくれない。それどころか目の前に僕が居るつていうのにもかかわらずに僕を挟んだ後ろ側の奴と話をするのまで居る。みんなでみんな僕を無視するつていうのかい？ほら、現に今だつて友達のトモ君が何か泣いているよ。いつもだつたら真っ先に僕に相談するのにさあ・・・どうしてみんな無視するの？もしかして、みんな・・・・・・僕が、見えてない？僕はそつと瞳を閉じた。

「やつと会えたね。僕はずつと待つていたんだ！君がここに来てくれるのを。でも、もう今日から君を待ち続けることは無いんだ。さつ！遊ぼう

「誰？そしてここはどこ？いや、ここでは見覚えがあるぞ、いつもどこからか覗いていた・・・

「ごめん、ごめんいきなりで困惑しちゃったかな？僕の名前はムージ。気軽にムージって呼んでね！それから・・・君はよくここを覗いてくれていたよね？」

僕は頷いた。

「やつぱり！でも、ここは君が立ち寄つてはいけない場所だつた。

だから君はここを覗くだけだった。さび、もう今は立ち寄りではない
けない理由なんてもう無い。さ、このぬいせきいでのびのびと遊ぼ
うよ」

僕はよく分からなかつたが
どうあえず「この世界を歩いてみることにした。

一遊西川

何をして

「そ、う、だ、な、あ、・・・・・あ、君、は、ケ、ム、が、好、き、か、い、?」
もちろん大好きだー・ド・ラ・ク・エ・や・F・F・なん・か・を・よ・く・や・る。

兩者何以？

「やう、こちゅうリニアのやうやく、一回治す。」

「さうだよーでもここからはちょっと離れた所にあるんだー。」

「用を開じて……さあ

「そして空を飛んでいる自分を思い描くんだ」

僕はギニッと口を開く。そして空を頭の中で描く。それから自分の姿。田頃からのアニメに洗脳された僕の頭では空を飛ぶのを描くなんてのは朝飯前だ。

すると、急に体が浮き上がるような感覚を感じた。

も
！
」

今回僕は悩んでしまった。難しかったというわけではなく、迷った

「そうさうね！」

だんだんムーヴに馴染めてきたようだ。

気づいたら僕は洞窟の前にいた。

「リリが君の思い描いたアーテンのいる洞窟やー。」

え？

「ソレは皆の創造で出来ているんだ！簡単に言えば自分の願いが叶いつてことやー！」

「さ、剣を構えて！」

今、僕の目の前には緑色のドアがいる。

卷之三

僕は大きく剣を振りかぶる

金の言方に、この用語方に止まらない。

二十九

「了解！」

僕は回転切りを食らわした。

七
七

「アーティスのねりを聞かせながら突進してきた。

みた。

「ぐぎゃあああああああああーー！」

すると、僕の剣は聖剣サンダーブレイクを放った！

エリーハは激しく吐き洟をした。

「ロマン」

急にムーヴが暗い顔をした。

「エハハたんだよ！」

「僕と一緒に連れて来た?」

「それじゃ

「え、那儿……」

段々と意識が朦朧としてきた。

「……………起きてー……………」

からか題の題が置かれる

業界を闇に。

100

目を開けた場所は明るく、そこにムーヴはない。

後からわかつたのだが、僕は川に落ちて瀕死の重体だつたらしい。
僕はあそこを忘れていつた・・・・・

門

怖からず、に覗いて、うらん！きこと振はしないから。・・・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0554d/>

幼き窓

2011年1月13日02時27分発行